

第5章 関係機関打合せ協議

本業務では、基礎岩盤面及び本体設計に関する関係機関打合せ協議を計4回実施し、打合せ協議の同行及び現場状況説明を実施した。有識者による現地視察協議の結果を踏まえてとりまとめ資料（安威川ダム基礎岩盤面の性状）を作成し、別冊資料に整理した。次頁以降に現地視察議事要旨を示す。

表-5.1 関係機関打合せ協議

打合せ協議日	
2017/1/24	土木研究所・国土技術政策総合研究所 現地視察協議
2017/2/3	土木研究所・国土技術政策総合研究所 現地視察協議
2017/5/10	有識者による現地視察協議
2017/5/12	有識者による現地視察協議

国土交通省国土技術政策総合研究所・国立研究開発法人土木研究所 ダム関係打合せ要旨

整備局 大阪 都道府県	ダム名 安威川ダム	直轄 補助 利水	件名	基礎岩盤弱部の対応に関する協議 他
年月日	平成 29年 1月 24日	前回打合せ	平成 年 月 日	
場 所	安威川ダム建設現場 ほか			
出席者	土木研究所) 国土技術政策総合研究所) 大阪府) 平井主査、関本主査、岩井主査、岡野副主査			
説明主旨	① 堤体右岸No.7付近の基礎岩盤に対する対応（中間報告） ② 堤体右岸F-1断層付近の基礎岩盤に対する対応（中間報告） ③ 基礎岩盤の岩級評価			
打合せ結果	<p>① 「堤体右岸No.7付近の基礎岩盤に対する対応（中間報告）」について、は以下のとおり</p> <ul style="list-style-type: none"> 堤体右岸No.7付近の基礎岩盤面直下に位置する横坑のスケッチ図について、基本設計会議時点でD級が広範囲に分布していたものが今回の調査でCL1級に修正されている。 これほど広範囲に修正したのであれば、なぜ岩級の評価が変わったのか整理しておく必要がある。 弱部を掘削除去することでコア敷表層の岩級はよくなつたが、横坑周辺にCL1級岩盤が残っている。 深い部分についても確実に止水処理を行うこと <p>② 「堤体右岸F-1断層付近の基礎岩盤に対する対応（中間報告）」については、以下のとおり</p> <ul style="list-style-type: none"> 堤体右岸F-1断層における断層処理グラウチングは、注入量確認のための試験施工を行うこと また、改良傾向によっては、超微粒子等についても試験施工を実施することが望ましい。 <p>③ 「基礎岩盤の岩級評価」については、以下のとおり</p> <ul style="list-style-type: none"> 今回の現地確認により、風化や破碎、変質の影響を受けやすい地質であることが分かった。 今後、左岸・河床部の掘削に当たっては注意して評価すべき。 また、CL1級岩盤であっても、強度の下限値となると、D級に近い岩盤となるため、“～程度”ではなく評価基準をより明確に説明できるようにすること。 			
(裏面記入 有 · 無)				
確認サイン				作成者名 岡野

打合せ資料（電子ファイル）送付済み

国土交通省国土技術政策総合研究所・国立研究開発法人土木研究所 ダム関係打合せ要旨

大阪	整備局 都道府県	ダム 名	安威川ダム	直轄 補助 利水	件名	基礎岩盤弱部の対応に関する協議 他
年月日	平成 29年 2月 3日	前回打合せ	平成 年 月 日			
場 所	安威川ダム建設現場 ほか					
出 席 者	土木研究所) [REDACTED] 大阪府) 平井主査、 関本主査、 岩井主査、 岡野副主査					
議題	①堤体右岸No.7付近の基礎岩盤に対する対応（中間報告） ②堤体右岸F-1断層付近の基礎岩盤に対する対応（中間報告） ③その他					
打 合 せ 結 果	<p>①「堤体右岸No.7付近の基礎岩盤に対する対応（中間報告）」について、は以下のとおり</p> <ul style="list-style-type: none"> NO.7の横坑周辺に存在するCL1級は、一部がプランケットグラウチングの対象範囲外となる。 CL1級や発達部より上流に向かることを踏まえ、 ▼プランケットグラウチングのステージ数を増やすなどの対応を検討する。 <p>②「堤体右岸F-1断層付近の基礎岩盤に対する対応（中間報告）」については、以下のとおり</p> <ul style="list-style-type: none"> 岩盤と吹付コンクリート、監査廊躯体の密着性は確認し整理しておく必要がある。 鉄筋構造物である置換コンクリートは引張力を鉄筋で持たせるものであり、鉄筋が働くのはひび割れが発生したあとであるが、コアの直近であればコンクリートのひび割れは水みちになる危険性がある。 置換コンクリートに発生する引張り力はコンクリートの引張強度よりも小さいことから、 計算で確認しておく。 △計算で確認しておこう。 FEM解析でのモデルの考え方を明確にすることと、解析により安全率が十分満たされていることを明確に記しておこう。 <p>③「その他」については、以下のとおり</p> <ul style="list-style-type: none"> 左岸頂部の挙動とその対応及び検討内容は、経緯を整理しておく。そのうえで、適時に打合せを行う。 					
(裏面記入 有・無) <input checked="" type="radio"/>						
確認サイン	[REDACTED]				作成者名	岡野

打合せ資料（電子ファイル）送付済み

安威川ダム建設事業の技術に関する意見交換会 現場視察 議事録

日 時：平成29年5月10日（水）14：00～15：30

場 所：安威川ダム（基礎処理施工現場）

出席者：

安威川ダム建設事務所 山内所長、武部G長、関本総括、
岡野副主査、原口副主査

[REDACTED]

主 旨

左岸法面対策、基礎地盤の判定状況について、現地で確認いただき、現方針と引き続き試験を進めていくにあたりご意見をいただく。

内 容

左岸法面対策

ダム：（現在の施工状況を現場で説明。）

委員：左岸道路盤よりも低標高部の変状をとらえる観測機器もあった方がいいと考える。

低標高部の掘削面を観察し必要に応じて設置を検討すること。

基礎岩盤の判定

ダム：岩盤の清掃を行わないと基礎岩盤の判定を適切に行えないことが判明したため、清掃を実施し適切な岩盤の評価を実施した。

委員：適切な岩盤を判定するために、岩盤の清掃を行うことは妥当。

（本業務に関する項目のみ記載）

安威川ダム建設事業の技術に関する意見交換会 委員説明 議事録

日 時：平成29年5月12日（金）14：00～15：30

場 所：安威川ダム（基礎処理施工現場）

出席者：

安威川ダム建設事務所 山内所長、看舎建設課長、武部G長、関本総括、
岡野副主査、原口副主査

主 旨

左岸法面対策、基礎地盤の判定状況について、現地で確認いただき、現方針と引き
続き試験を進めていくにあたりご意見をいただく。

内 容

左岸法面対策

ダム：（現在の施工状況について現場で説明。）

委員：左岸頂部の対策については、水抜きボーリングによる間隙水圧の低下
を図ることは必要。

今後押さえ盛土を除去するときもモニタリングを行いながら作業を進
めること。

基礎岩盤の判定

ダム：岩盤の清掃を行わないと基礎岩盤の判定を適切に行えないことが判明
したため、清掃を実施し適切な岩盤の評価を実施している。

委員：適切な岩盤を判定するために、岩盤の清掃を行うことは妥当。

（本業務に関する項目のみ記載）